

SAMPLE

特集レポート No. 034

自動車業界の新ビジネス・・・所有から利用へ

Strictly Confidential



2017年 6月28日

はじめに

- 近年、モノが充足していることなどを受け消費者の嗜好が「所有する価値」から「経験する価値」へと移行し、“モノ消費”から“コト消費”へとトレンドが移っている中、自動車業界においても、ライドシェアやカーシェアリングといったシェアリングエコノミーサービスが台頭してきている
- 一方で、日本においてこうしたサービスは今一つ普及しきれていない状況にある。これは、充実したサービス展開を阻む法規制や国内自動車業界の産業構造に起因するところが大きい
- 本レポートでは、自動車業界における「所有から利用へ」の消費者トレンドの変化から生まれたサービスを紹介するとともにその課題を整理し、国内におけるビジネスとしての普及・定着の可能性を探る

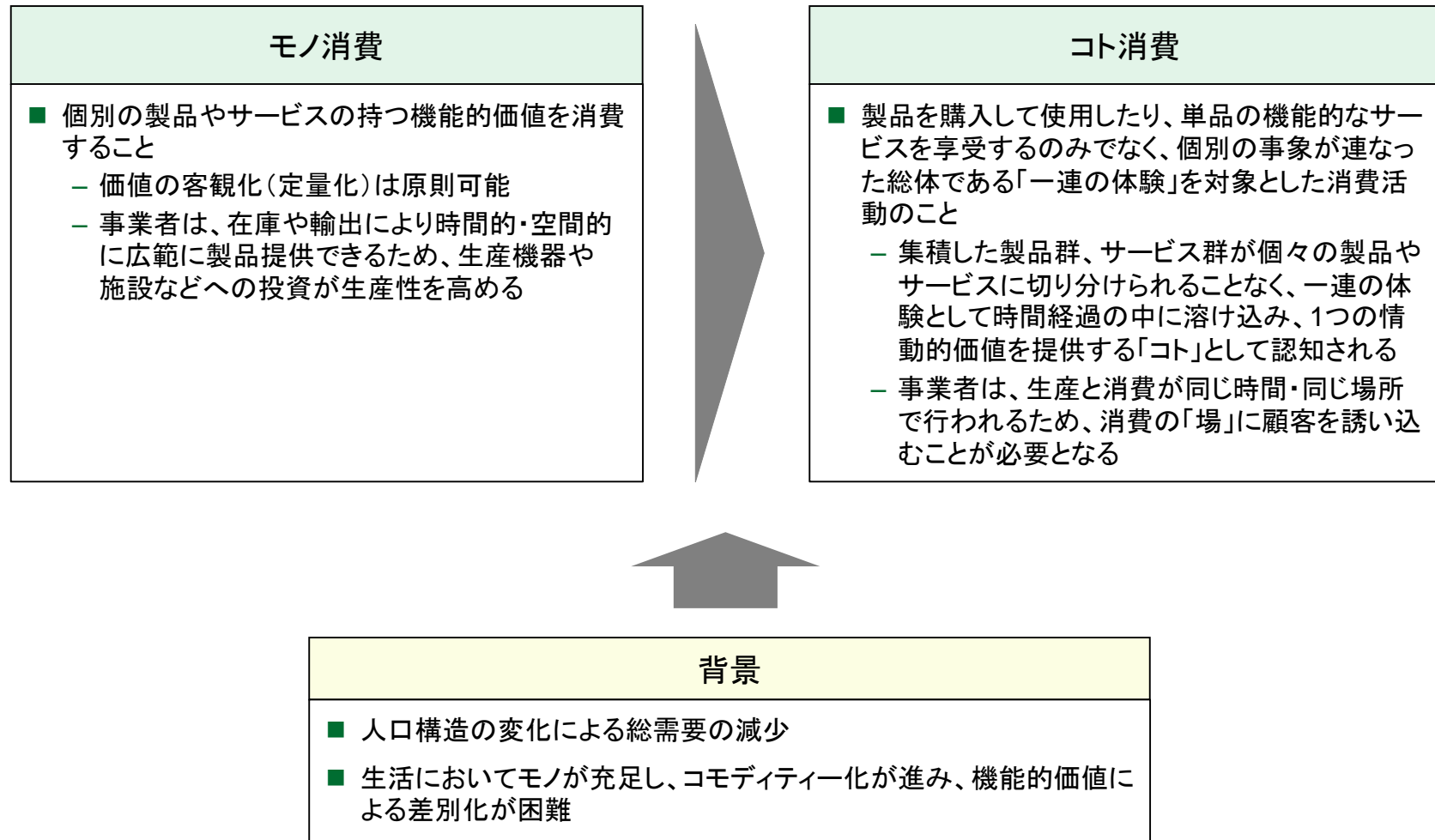
本資料の流れ



- I. 「所有から利用へ」のサービス推進要因
- II. 自動車業界のサービスの紹介
 1. ライドシェア
 2. カーシェアリング
- III. 普及を阻害する要因
- IV. 今後の普及に向けて

モノ消費からコト消費へ

- 人口構造の変化による総需要の減少や生活におけるモノの充足・コモディティ化などを背景に、個別の製品やサービスの機能的価値を享受する”モノ消費”から”一連の体験”を対象とした”コト消費”へと消費者の価値観が移行



シェアリングエコノミーの拡大

- “モノ消費”から“コト消費”への価値観の変化を表す消費行動の動きの代表例として、シェアリングエコノミーの拡大が挙げられる

シェアリングエコノミーとは

“場所・乗り物・モノ・人・お金などの遊休資産をインターネット上のプラットフォームを介して個人間で貸借や売買、交換することでシェアしていく新しい経済の動き”

～シェアリングエコノミー協会～

シェアリングエコノミーの例

	シェア内容・対象	事業者(サービス)
シェア ×モノ	■ フリマ、レンタルサービス	■ mercari、FRIL、ジモティー、airCloset など
シェア ×移動	■ カーシェア、ライドシェア、コストシェア	■ UBER、タイムズカープラス、notteco、cogicogi、Anyca など
シェア ×空間	■ ホームシェア、農地、駐車場、会議室	■ Airbnb、Social Apartment、SPACEMARKET など
シェア ×スキル	■ 家事代行、介護、育児、知識、料理	■ タスカジ、cococnala、nutte、TABICA など
シェア ×お金	■ クラウドファンディング	■ Makuake、READYFOR?、STEERS、Crowd Reality など

自動車業界におけるシェアリングエコノミーサービスの登場

- 自動車は取得や維持にかかる費用が高く、近年は保有価値の低下にもみまわれた
 - 一方で、ライドシェアやカーシェアリングなどのシェアリングエコノミーサービスの注目が高まる

自動車の保有に関する動向

動向

- 保有台数の伸び率が停滞
- 世帯当たり普及台数は減少傾向

“保有価値の低下”

背景

- ① 費用対効果の非合理性
 - 取得費用に加え、車検・点検代や保険料や駐車場代などのランニングコストが、ほとんど車に乗らない場合であっても数十万円程度かかってしまう
- ② 違法駐車・飲酒運転の取り締まりの強化
 - 2006年の道路交通法改正により民間人による駐車監視員制度の導入
 - 1999年の東名高速飲酒運転事故、2006年の福岡海の中道大橋飲酒運転事故などの飲酒運転による悲惨な事故を背景に飲酒運転が厳罰化、社会的制裁も厳しくなっている
- ③ ステータスの低下
 - 高級車や外車を所有して乗り回すことへの憧れが若者の間で希薄化しており、「マイカー」を持つということ自体にあまり価値が見出されなくなっている

自動車業界における シェアリングエコノミーサービスの登場

- ライドシェア
- カーシェアリング

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

